

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	中野市立中野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	4	4	4	2	29	40
児童数	162	143	153	153	148	132	10	901	

研究の概要

1. 研究主題

「自律力を育てる」
～個に応じた指導のための教材開発、指導方法はどうか～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 4年生 算数
昨年度より研究を継続している教科
児童の理解の状況に差が出やすい教科であり、習熟度別学習を実施している。
各コースにおいて、個に応じた教材開発が必要であるため。
- ・ 6年生 国語
昨年度より研究を継続している教科
これまでの研究成果をもとに、伸びる力をいっそう伸ばす言語活動別学習に
おける指導方法の研究をさらに進めるため。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 子ども自らが、できた・分かった喜びを実感できる学習 ～一人一人がのびる少人数学習の指導方法・指導形態・評価はどうか～ たらよいか～</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人にきめ細かな指導が行える指導体制作り 算数科 習熟度別少人数学習 国語科 少人数均等割り学習と領域別学習 ・ 児童が喜びを感じながら力を付けていくために 効果的な指導方法や教材開発、評価方法の開発を目指す。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究体制の工夫 ・ 指導方法の工夫、教材開発について 算数科：4～6学年全児童に「算数意識調査」「学力調査」を実施。 習熟度別に繰り返し・基本・発展コースを編成し、コース別 単元展開と実態に応じた教材を工夫する。 6年生『体積』『計算の見積もり』 国語科：少人数均等割り学習と言語活動別学習を1単元の中で組み合わ せて実施。児童の願いに立ちながら、伝え合う力を高めてい く。 5年生『伝えよう、私の好きな本』『大造じいさんとガン』 ・ 学力の評価を生かした指導の改善 国語科：単元での評価の観点と指導の手だての決めだし
----------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 自律力を育てる ～個に応じた指導のための教材開発、指導方法はどうか～ 研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科 <個に応じた指導のための教材開発> 習熟度別少人数学習で児童の実態に合わせたコース設定をする。 児童の理解に応じた問題の提示方法、場面設定などを吟味し、 具体物から数のイメージを明確にして考える学習と、問題作り を通して学習内容を定着させる学習を展開する。 ・国語科 <個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫> 発展学習として言語活動別コース選択学習を取り入れる。 児童が意欲をもって学習を進め、と得意とする領域の力をさら に伸ばす学習・授業を展開する。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科と国語科で研究の視点を焦点化する。 算数科：繰り返し・基礎・発展の各コースの単元展開を工夫する。 例題や扱う数の検討をする。 4年生『わり算 1』『わり算 2』 国語科：共通につける力と児童が選択したコースで伸ばす力を明確にし て単元展開を考える。 自己評価と相互評価のあり方を研究する。 6年生『伝えよう、私の思い』『作品、作者に出会う』 5年生『ニュースを伝えよう』
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 自律力を育てる ～個に応じた指導のための指導方法、評価はどうか～ 研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科、国語科の少人数学習で一人一人の力を伸ばすための指導方法 の工夫 ・評価の積み重ねと評価を生かした指導のあり方を研究する。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材開発、指導方法・指導体制の工夫を継続するとともに、自己評価・ 相互評価を生かして、一人一人が自分の学びを振り返り、さらに力を伸 ばしていける学習のあり方を研究する。 ・算数科、国語科ともに伸びる力をさらに伸ばすための発展的な学習教材 の開発を進める。
----------------	---

(3) 研究推進体制

<p>実践研究推進委員会 6名 委員が中心になって、各学年で重点研究を進める。 1学年：生活科 2学年・特殊教育：人権同和教育 4学年：算数科 3・5学年：総合的な学習 6学年：国語科</p> <p>各学年の研究会 全校研究会 各学年の研究、実践に学ぶ。共通理解を深める。研究協議。 少人数担当者会</p>
--

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 算数科

現5年生 学力テストの結果より

	正解率(単位%)				
	数と計算	量と測定	図形	数量関係	合計
H14実施	70.6	63.3	48.9	39.4	55.6
H15実施	66.2	69.8	66.4	55.1	64.4

・「図形」「数量関係」の正答率が上がり、各領域の得点力が平均化してきた。

意識調査の結果より

- ・算数が「好き」算数の授業が「わかりやすかった」と答えた児童が増加した。
- ・発展コース「自分の力で問題を解こうとしている」「もっといろいろな問題をといてみたい」という意欲的な答えが多かった。
- ・繰り返しコース「わからないことなど、先生や友だちに聞きやすい」という児童が増えた。

研究授業の考察より 4年生『わり算 2』

確かめコース

÷ = 3の式から、商が3になる式の秘密を探る場面で、 $3 \div 1 = 3$ とその他の式の被除数と除数の変化を比べることにより、被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらないことに気づいた子どもたち

教科書の式ではなく、九九の範囲で計算できる簡単な式から学習するように考えた。計算ができないために本時のねらいに迫れない児童はいなかったため、どの子も積極的に参加する活発な授業となった。

被除数が 倍になったときには除数も 倍になっていることに多くの子が気づくことができた。

発展コース

わり算の性質を使って、除数・被除数に同じ数をかけたり割ったりして問題を作り、解き合う活動で、除数・被除数の関係の理解を深めていった子どもたち

除数・被除数にかけたり割ったりする数字に5や10の倍数ではなく、7, 8, 9のような数字を選んで、より難しい問題を作り、解こうとしていた。

36 ÷ 6 = 6の式をもとに 作った問題 友だちと交換して解いてもらう

$$(36 \times 8) \div (6 \times 8) = 288 \div 48 = 6$$

$$(288 \div 2) \div (48 \div 2) = 144 \div 24 = 6$$

$$(144 \times 9) \div (24 \times 9) = 1296 \div 216 = 6$$

わり算・かけ算の性質を十分に理解した上で活用することができる子どもたちが多く、問題を作ったり解き合ったりする活動は、より発展的な倍数・約数の関係を見つけたすことにもつながるだろう。

(2) 国語科

現6年生 学力テストの結果より

	正答率(単位%)				
	漢字(読み)	漢字(書き)	読む力	伝え合う力	合計
H14実施	73.9	72.8	72.8	86.7	79.2
H15実施	85.5	77.7	75.9	77.7	79.2

・漢字の読み・書き、読む力ともに正答率が上がっている。

言語活動別学習後の自己評価記録より 6年生『伝えよう、私の思い』

意見交換会コース

・資料を集めて、自分の言いたいことが言えるようになった。他の人の思っていることがわかった。

・話し合いの場で、いろいろ質問を考えることができた。

・前より自信をもって、自分の言いたいことを相手に伝えられるようになったと思う。主張の仕方もわかった。

ポスターセッションコース

・今までは、あまり人前で話すことはしなかったけど、このコースで練習して、自信がついた気がする。

レポートコース

・たくさん資料を探ることができた。自分のレポートに必要な資料を選ぶのは難しかったけど、いっしょうけんめい考えて選べた。

・レポートの書き方が分かった。

教科書の教材文「平和のとりにてを築く」を学習して、発展学習として単元を構成した。戦争と平和に対する考えの深まりも多く見られた。

自分の選択したコースについては、ほとんどの児童が「よかった」とし、自分の取り組みに対しても「がんばった」と満足感を表している児童が多かった。

2. 今後の課題

- ・算数科では、習熟度別学習における各コースの効果的な単元展開と教材開発を継続して研究する。特に伸びる力をさらに伸ばすための、発展的な学習の進め方を検討していく必要がある。
- ・国語科において言語活動別学習を中心に、指導方法・指導体制の改善を目指す。その際、基礎・基本として全児童につける力と、発展的に活動を通して伸ばす力のそれぞれを明確にしていく。
- ・自己評価とともに、児童の相互評価などをどのように学習に生かしていくかを研究し、評価の実践を積み重ねていく。

学力等把握のための学校としての取組

- 1～3年生で実施
算数（計算）国語（漢字の読み書き）実態調査比較テスト
 - ・校内で作成した問題
 - ・継続して実施することにより、低学年の実態を把握し、比較検討する。
 - ・3学期に実施
- 4～6年生
C R T 学力テスト 算数・国語
 - ・継続して実施することにより、実態を把握し、比較検討する。
 - ・全国の平均等との比較により、本校の実態・課題点を明確にする。
 - ・3学期に実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

全県公開授業および研究会
日時：11月18日（火） 会場：本校
自律力を伸ばす・指導力を向上させる授業研修（3年次）の発表と合わせて、学力向上フロンティア事業指定校研究の発表および提案
研究発表
共同参観授業 4年生「算数」 5年生「総合学習の時間」
6年生「国語」
その他、自由参観授業として全学級公開
講演会 講師：田島 薫先生
参加者 計171名（内 県外15名）
中野小学校HP作成
パンフレット作成（公開授業の案内）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無